

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	1年次
目的：母性の健康の保持・増進を目指した看護を実践するための基礎的知識を習得する。 目標：1 母性看護を必要とする対象の特性を理解し、母性看護の課題や役割を理解できる。 2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解できる。 3 ライフサイクル各期における母性の健康および健康問題と健康の保持増進に向けた看護を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 母性看護の基盤となる概念	6	1 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは (1) 母性の定義 (2) 親になることの発達心理学的な意味 (3) 親になることの社会文化的な意味 2) 母性の身体的特性 3) 母性の心理・社会的特性 2 母子関係と家族発達 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2) 家族機能と家族の発達課題 (1) 家族の発達課題 (2) 父子関係形成 (3) 母性・父性と親性 3 セクシュアリティ 1) セクシュアリティとは 2) 性の多様性 (1) 性同一性障害 (2) 性分化疾患 (3) LGBT 4 リプロダクティブヘルス/ライツ 1) リプロダクティブヘルス/ライツとは 2) 女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 5 母性看護のあり方 1) 母性看護の理念 2) 母性看護の基盤となる概念 (1) 女性を中心としたケア (2) 家族を中心としたケア (3) ウェルネス (4) エンパワーメント (5) ヘルスプロモーションとは (6) セルフケア 3) 母性看護の課題と展望 6 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定	

		3) 倫理的課題の実際 (1) 人工妊娠中絶 (2) 生殖補助医療 (3) 出生前診断
2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	6	1 母性看護の動向と現状 1) 母子保健統計の動向と母子を取り巻く環境 (1) 出生・死亡・人工妊娠中絶に関する統計 (2) 周産期医療システム 母体搬送・新生児搬送・チーム医療・周産期医療ネットワーク 2) 母性看護に関する法律 (1) 母子保健法 (2) 母体保護法 (3) 戸籍法 (4) 死産の届けに関する規定 3) 母子保健に関する施策 (1) 母子保健施策 (2) 出産・育児にかかわる経済的支援 (3) 妊娠・出産包括支援事業 (4) 健やか親子21 (5) 障害を通じた女性の健康支援 4) 母性看護の場と職種
3 女性のライフステージ各期における看護	10	1 女性のライフサイクルにおける健康の必要性 2 女性のライフステージ各期における対象の特徴と看護 1) 思春期 (1) 身体・心理社会的特徴 (2) 健康問題と看護 ① 月経異常 ② 若年妊娠 ③ 人工妊娠中絶 ④ 性感染症 ⑤ 思春期女性への看護の視点 2) 成熟期 (1) 身体・心理社会的特徴 (2) 健康問題と看護 ① 月経困難症 ② 子宮筋腫 ③ 子宮内膜症 ④ 乳がん ⑤ 子宮頸がん ⑥ 不妊症 ⑦ 成熟期女性への看護の視点 3) 更年期・老年期 (1) 身体・心理社会的特徴 (2) 健康問題と看護 ① 更年期障害 ② 尿失禁 ③ 骨粗鬆症

		④ 更年期うつ ⑤ 子宮体がん ⑥ 子宮脱・下垂 ⑦ 更年期・老年期女性への看護の視点
4 リプロダクティブヘルスに関する支援	7	1 性暴力を受けた女性に対する看護 1) 性暴力と社会 2) 性暴力被害の実態と社会の対応 3) 性暴力を受けた女性への支援 2 児童虐待と看護 1) 児童虐待の実態 2) 児童虐待の対策 3) 児童虐待の予防 4) より早期からの予防に向けて 3 国際化社会と看護 1) 母子保健の国際化 2) 在日外国人の母子保健 4 災害時の妊産婦と家族への支援 1) 災害時の母子支援の課題 5 不妊症と看護
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート	
テキスト	医学書院 母性看護学〔1〕 母性看護学概論	
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。	
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的：妊娠期及び分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康の保持・増進を目指した看護の基礎的能力を養う。 目標：1 妊娠期及び分娩期の正常な経過と起こりやすい異常を理解できる。 2 妊娠期及び分娩期の経過に合わせた看護を理解できる。 3 マタニティサイクル各期の対象に必要な基本的看護技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 妊娠期における看護	8	1 妊娠期の身体的特徴 1) 妊娠の成立と診断 2) 胎児の発育とその生理 3) 妊娠に伴う母体の生理的变化 2 妊娠期の心理・社会的特性 1) 妊婦の心理 2) 妊婦と家族および社会 3) 親役割取得過程 (1) 母親役割 (2) 父親役割 3 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠の経過と診断 2) 妊婦と胎児の健康状態 (1) 胎児心拍モニタリング 4 妊婦と家族の看護 1) 妊婦がうける母子保健サービス (1) 母子健康手帳 (2) 妊婦健康診査 2) 妊婦の健康状態を保持・増進するための看護 (1) 食生活 (2) 排泄 (3) 清潔 (4) 衣生活 (5) 姿勢 (6) 活動と休息 (7) 勤労 (8) 性生活 (9) マイナートラブルと対処法 3) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育 (2) 育児準備のための保健相談 (3) 家族役割調整のための保健相談	
2 妊娠期の異常と看護	4	1 ハイリスク妊娠 1) ハイリスク妊娠の定義 2) 生活習慣・心理・社会的要因・体格による影響 3) 妊娠・分娩歴 4) 妊娠経過に影響を及ぼす基礎疾患 (1) 高血圧症 (2) 心疾患	

		(3) 糖尿病 (4) 甲状腺疾患 (5) 精神疾患 2 妊娠期の感染症が胎児に及ぼす影響 1) 風疹 2) トキソプラズマ症 3) サイトメガロウイルス感染症 4) 単純ヘルペス 5) 水痘、带状疱疹 6) その他 (1) 成人T細胞白血病 (2) B群溶血性レンサ球菌感染症 (3) 性器クラミジア 3 妊娠疾患 1) 妊娠悪阻 2) 妊娠高血圧症候群 3) 血液型不適合妊娠 4) 妊娠貧血 5) 妊娠糖尿病 4 多胎妊娠 5 妊娠持続期間の異常 1) 流産 2) 早産、切迫早産 3) 過期妊娠 6 子宮外妊娠 1) 卵管妊娠、卵巣妊娠、腹膜妊娠、頸管妊娠 7 ハイリスク妊婦の看護 1) 高年妊婦、若年妊婦の看護 2) 肥満・過剰体重増加妊婦の看護 3) 生殖補助医療（ART）後の妊婦の看護 4) 合併症を有する妊婦の看護 (1) 心疾患 (2) 糖代謝異常合併妊娠 (3) 子宮筋腫 5) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 6) 切迫流・早産の妊婦の看護 7) 多胎妊婦の看護
3 分娩期における看護	6	1 分娩期の身体的特徴 1) 分娩の要素 (1) 分娩の3要素 (2) 胎児と子宮および骨盤との関係 (3) 分娩の機序 2) 分娩の経過 (1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛 (3) 胎児に及ぼす影響 (4) 産婦の心理・社会的変化 2 産婦・胎児、家族のアセスメント 1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (1) 基礎的情報の収集 (2) 分娩経過 (3) 分娩進行に伴う反応

		(4) 基本的ニード 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント (1) 母親役割獲得準備状態 (2) 家族関係 3 分娩期の看護の実際 1) 看護目標と産婦のニード 2) 安全・安楽な分娩への援助 (1) 出産環境の調整 (2) 産痛緩和のための身体的ケア 3) 出産体験が肯定的になるための看護 (1) 出産への対処を促す看護 (2) 産婦に寄り添い支持する看護 (3) 出産体験の振り返り 4) 基本的ニードに関する援助 (1) 水分・栄養・排泄・清潔・睡眠・休息のニードの充足 5) 家族発達を促す援助
4 分娩期の異常と看護	4	1 産道の異常 1) 骨産道、軟産道の異常 (1) 狭骨盤 (2) 軟産道強靱 2 娩出力の異常 1) 陣痛の異常 (1) 微弱陣痛 (2) 過強陣痛 2) 腹圧の異常 3 胎児の異常 1) 発育および形態の異常 2) 胎位の異常 (1) 骨盤位 3) 胎勢・回旋の異常 4) 胎児機能不全 4 胎児の付属物の異常 1) 胎盤の異常 (1) 前置胎盤 (2) 常位胎盤早期剥離 2) 臍帯の異常 3) 卵膜の異常 (1) 前期破水 4) 羊水の異常 (1) 羊水過多症 (2) 羊水過少症 (3) 羊水混濁 5 分娩時の異常 1) 子宮の異常 (1) 子宮破裂 2) 外陰部の異常 (1) 会陰裂傷 (2) 会陰血腫 3) 胎盤の異常 (1) 癒着胎盤 6 異常のある産婦の看護 1) 破水が生じた産婦の看護

		2) 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 4) 鉗子分娩・吸引分娩を受ける産婦の看護 5) 帝王切開を受ける産婦の看護 6) 分娩時異常出血のある産婦の看護
5 母性にかかわる看護技術	7	1 妊産婦の看護技術 ※1 1) 腹囲・子宮底測定 2) レオポルド触診法 3) 胎児心拍数の聴診 4) NST 装着 2 褥婦の看護技術 ※1 1) 子宮底測定、子宮底輪状マッサージ 2) 胎盤計測 3 新生児の看護技術 ※1 1) バイタルサインの測定 2) 身体計測 3) 沐浴
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート、参加状況・態度等	
テキスト	医学書院 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 母性看護学〔2〕 母性看護学各論	
参考図書	医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術	
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習・グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考	※1は演習を行う。 母性看護技術が根拠に基づき適切かつ安全に実施できるよう各自で練習を重ねる。	

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次
目的：産褥期及び新生児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と健康の保持・増進を目指した看護の方法を理解できる。 目標：1 産褥期及び新生児期の正常な経過と起こりやすい異常を理解できる。 2 産褥期及び新生児期の経過に合わせた看護を理解できる。 3 褥婦・新生児とその家族に対する看護の展開方法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 産褥期における看護	6	1 産褥期の特徴 1) 正常な産褥の経過 2) 産褥期の心理・社会的変化 2 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断 2) 褥婦の健康状態 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化 (3) 褥婦の生活パターンとセルフケアレベル (4) 不快症状と対処能力 (5) 心理的变化 (6) 関係性・役割獲得 (7) 褥婦を取り巻くサポート態勢 3 褥婦と家族の看護 1) 産褥復古に関する支援 2) 母乳育児への支援 3) バースレビュー 4) 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 5) 親子の愛着形成への支援 6) 育児技術獲得への支援 7) 家族関係再構築への看護 8) 退院後の生活調整に向けた看護 (1) 家族計画 (2) 活用できる子育て支援 ① 産後の健康診査 ② 新生児訪問・乳幼児全戸訪問事業 ③ 産後ケア事業 (3) 職場復帰	
2 産褥期の異常と看護	4	1 産褥期の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 (1) 産褥熱 (2) 乳腺炎 3) 産褥血栓症 4) 精神障害 (1) マタニティブルー (2) 産後うつ病 (3) 産褥精神病 2 異常のある褥婦の看護	

		1) 感染症を有する褥婦の看護 2) 乳房トラブルを有する褥婦の看護 3) 母子分離時の褥婦の看護 4) 死産、障害をもつ新生児を出産した褥婦・家族の看護 5) 精神障害合併妊婦と家族の看護
3 新生児期における看護	4	1 新生児の生理 1) 新生児の定義 2) 新生児の生理的機能 (1) 新生児の呼吸・循環・体温 (2) 新生児の消化と吸収 (3) ビリルビン代謝と生理的黄疸 (4) 水・電解質代謝・腎機能 (5) 新生児の免疫 (6) 新生児の皮膚 (7) 新生児の反射、感覚機能 (8) 新生児マスキング 2 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 (1) 出生直後の評価、アプガースコア・蘇生の必要性の判断 (2) 発育の評価 (3) 黄疸の評価 (4) 成熟度の評価 (5) 行動の評価 2) 新生児の健康状態 (1) 子宮外生活の適応状態 ① バイタルサイン ② 排せ状態 ③ 哺乳力 ④ 生理的体重減少 ⑤ 黄疸 3 新生児の看護 1) 出生直後の看護 (1) 新生児蘇生法に沿ったケア (2) 母子標識の装着 (3) 点眼 (4) 臍処置 2) 出生後から退院時までの看護 (1) 清潔ケア（ドライテクニック・沐浴） (2) 新生児の栄養 (3) 感染予防 (4) 事故防止 (5) 退院診察と健康診査
4 新生児期の異常と看護	4	1 新生児の異常 1) 新生児仮死 2) 呼吸障害 3) 低血糖 4) 分娩外傷 (1) 頭血腫 (2) 産瘤 5) 低出生体重児 6) 高ビリルビン血症 2 異常新生児の看護

		1) 低出生体重児の看護 2) 高ビリルビン血症児の看護 (1) 光線療法時の看護
5 褥婦・新生児の看護過程	1 1	1 母性看護における看護過程展開の特徴 1) ウエルネスの概念 2) ウエルネス志向の考え方 3) ウエルネス看護診断の特徴 2 褥婦の看護過程の展開 ※1 1) アセスメント 2) 計画立案 3) 実施 4) 評価 3 新生児の看護過程の展開 ※1 1) 出生直後とそれ以降のアセスメント 2) 計画立案 3) 実施 4) 評価
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート等
テキスト		医学書院 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 メディックメディア 病気が見える⑩ 産科
参考図書		医学書院 ウエルネスからみた母性看護過程
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習・グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考		※1は演習を行う（事例を用いて看護過程を展開）。

母性看護学実習

〔2単位 90 時間〕

目的

周産期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴や適応過程を理解し、母子の健康促進および家族関係の発達を目指した看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 周産期にある対象を総合的に理解できる。
- 2 周産期にある対象の状態に応じた援助が理解できる。
- 3 母性看護を通して、自己の看護観を考えることができる。
- 4 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、他職種連携の重要性及び看護の継続性が理解できる。
- 5 専門職業人としての倫理観をもち、責任ある行動がとれる。

実習時期及び期間

2～3 年次 12 日間